

患者と密着せずに 体を支えながら心エコー図検査を行うアイテム

患者を左側臥位にし、
抱え込み式によって経胸壁心エコー図検査を行う場合、
検査者の腰、背中、太もも等が患者に触れてしまう。
時間経過にて患者は姿勢を保持できず
検査者側へ傾いてくることも経験する。

そこで、経胸壁心エコー図検査時に左側臥位となった
患者の背中と検査者の間にクッションを挟み
身体の接触を避ける工夫をしている。

また、運動負荷検査後や暑い季節の発汗時でも
できるだけ汗が触れないための対策としても有効となる。
さらに、三角形の角度のついたクッションを使用することで
検査者が直接的に患者を支えなくとも

経胸壁心エコー図検査を行うことができる。

経食道心エコー図検査時は
左側臥位となった患者の背中側へクッションを置くことで、
反射で体が逃げてしまうことの予防に役立てている。
この時、三角形のクッションを2つ組み合わせ、
四角形の厚いクッションとしても使用する等、
患者の体格や検査環境に合わせて使い分けている。

